

道徳だより

テーマ：「実践意欲、態度」の育成につなげる授業をするんだ！

どう徳？
どう説く？
どう道 talk.



令和 8 年 9 月
京都市立道徳教育研究会
広報部
(第 4 号)

7月31日（金）の授業実践力向上講座では、百々小学校 島崎 紀理 教諭による模擬授業が行われました。その中で「こうしたい」「こんな自分になりたい」という実践意欲・態度の育成を見据えた「自己の生き方についての考えを深める」ための効果的な指導や工夫がたくさん仕掛けられていました。今回は、それらについて紹介させていただきます。

内容項目：C よりよい学校生活、集団生活の充実

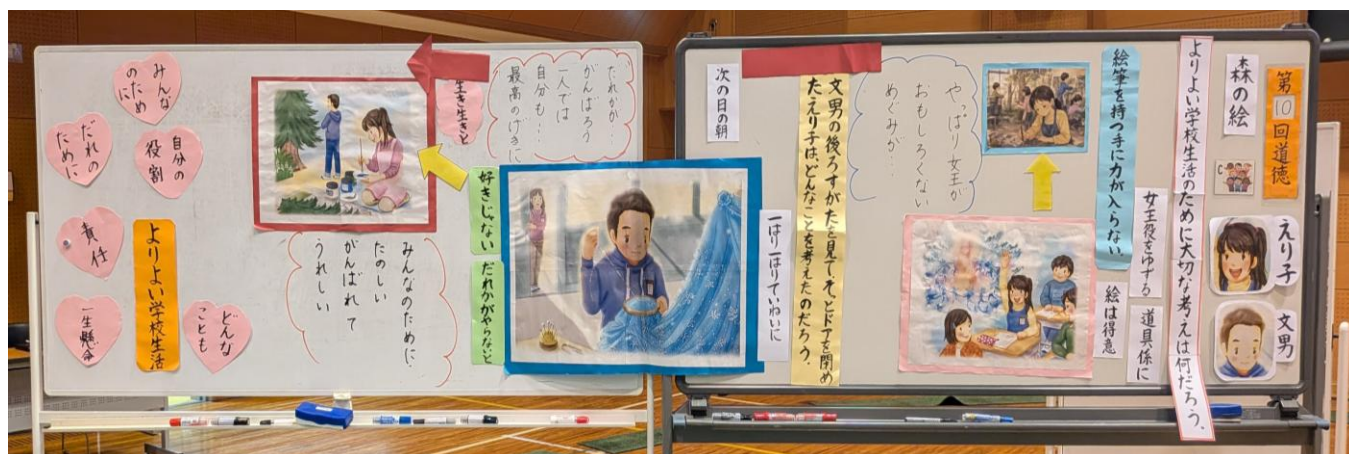
教材名：第5学年「森の絵」（「生きる力」日本文教出版）

本時のねらい

文男の姿やえり子の心の変化を考えることを通して、集団にはさまざまな役割があり、自分が役割を果たすことで集団が成り立つことを理解し、集団の一員として責任をもって行動しようとする態度を養う。



コーディネーター
百々小学校
教諭 島崎 紀理
(マイスター)



導入

★学校生活での写真の提示

委員会活動、たてわり活動、登校班など、いろいろな集団の中で学校生活を過ごしていることに気付かせる。

★事前アンケート（ロイロノート）の活用

児童の率直な思いや考え（プラス面・マイナス面）を共有し、共感的に寄り添うことで、より深い思いやねらいとする価値へとつなげていく。

みなさんの周りには、どんな集団があるのか思い浮かべてください。

その集団で、みなさんは「どんな気持ちで活動しているのか」アンケートをとりましたね。見てみましょう。

⇒ 普段の生活から振り返ることで、本時のねらいである「**集団の一員である**」という意識をもたせ、**自我関与を通して自分ごととして考える**ことができるようにします。

展開前段

★読みの視点を与え、線を引きながら教材を読む

教材文を通してねらいとする価値を意識させ、

問題意識をもって読む必然性をもたせる。

「よりよい学校生活のために、大切な考えだな。」そのために「ここを考えたいな。」というところに線を書いてくださいな。



★役割演技（動作化）

意識・意見の変容・深まり

1回目…「文男さん、すごいな。」「じゃましないでおこう。」

2回目（顔を意識する）…「なんで自分は頑張れないんだろう。」
「自分も頑張ろう。」

でも、文男さんが衣装を一生懸命作ってくれているんだから、えり子は頑張らなくてもいいんじゃない？

補助発問…「一人では劇はできない。」「みんなでする。」

（動作化を）見ていた人はどう思いましたか。

ドアを閉めた時のえり子の顔（表情）も考えてみましょう。



★道徳ノート

自分の考えを書けた人から交流をする。自分と友達の考えを分けて書くことで、**多面的・多角的な見方・考え方を深められる**ようにする。

⇒役割演技での気づきや道徳ノートに記述した考えや思いを意図的に整理して板書にまとめます。さらに補助発問をしたり、挿絵や人物の表情も手立てとしたりすることで、**心情の変化や価値への気づきが可視化された板書の構成となり、学びをより深める**ことができます。

展開後段

「よりよい学校生活のために大切な考えは何だろう」ということで考えてきました。

集団の一員として大切な考えとはどんなことだと思いますか。

★「めあて」にもどる

導入時の写真を再度提示し、改めて「めあて」を確認することで、教材の世界から離れ、「**自分自身はこれからどんな気持ちや考えを大切にしたいのか**」を主体的に考えさせる。

⇒児童から出た大切なキーワードを「ハート型のカード」に書いて板書していくことで、本時のめあてに対する自分なりの答えが視覚的にもよりわかりやすくなります。

終末

ロイロノートに最初は、「自分の選んだ役でないものはちょっと…」という意見がありましたか…

この学習を始める前の40分前の自分にアドバイスをしてほしいと思います。

★今の自分から過去の自分へのアドバイス

事前アンケートで委員会活動やたてわり活動などに対する気持ちを書いた過去の自分に対し、学習を通して学んだことや気付いたことをアドバイスすることで、学習前の考えと今の考えの「比較」や「自分の変容」を前向きにとらえることができる。

⇒過去の自分自身にアドバイスをすることで、**学びをより「自分ごと」として深め、日常での前向きな実践意欲や態度へとつながっていきます。学習前後の自分の比較や伸びに自ら気付くことができる**効果的な工夫です。

授業後の学年部ごとの協議でも実践意欲・態度の育成において「大切だと思うこと」や「今後してみたい工夫」など、先生方が自分事として熱く話し合われる姿が印象的でした。「何を感じ、考えさせたいのか」「どのようにねらいにつなげていくのか」という明確な目的と意図をもった指導や手立ての工夫こそが、子どもたちの生き方についての考えを深めることにつながっていくのではないのでしょうか。私たちも日々の授業づくりで大切にしていきたいですね。最後に、ご提案いただきました島崎 紀理先生、本当にありがとうございました。【文責 栗山 沙也可（醍醐小学校）】